

## 美杉村における衣生活の実態調査（第2報）

西 条 セ ツ      尾 関 清 子  
 辻      啓 子      丸 山 幸 江  
 森 下 文 子

### 緒 言

我々生活科学研究班は美杉村における生活の基礎調査と、更に衣生活の実態を把握するための調査を行った。

美杉村の位置、歴史、産業、農産物、その他の収入源については第1<sup>1)</sup>報の通りである。

交通的にはかなり不便な農山村において、文化生活を営む主要耐久消費財と衣生活及び家事労働の調査を行い、山村の生活のあり方について検討を試みた。

### 調査並びに集計方法

#### I 調査地区

美杉村7部落のうちA（雲出川の支流である八手俣川上流）、B（交通的に名張市に近い）C（美杉村の中心に位置する）の3部落を選んだ。

#### II 調査対象

上記部落の主婦を対象にした。調査人員は93名である、（A部落34名、B部落23名、C部落36名）。

#### III 調査内容

- 1 美杉村の生活基礎調査
- 2 生活における主要耐久消費財
- 3 衣生活について
  - (1) 主婦の被服所持数
  - (2) 1年間（昭和40年8月～41年7月）の被服購入枚数
  - (3) 衣生活に対する態度
- 4 主婦の職業時間、家事労働、その他生活全般について
- 5 結婚の費用調査
- 6 農薬散布の場合の服装について

そのうち1、2、3の(1)、(2)については第1<sup>1)</sup>報で発表済みのため、今回は3の(3)、4、5について報告する。6については回答者の殆んどが農薬散布の場合普段着のまま実施しているので省略する。

## 調査結果及び考察

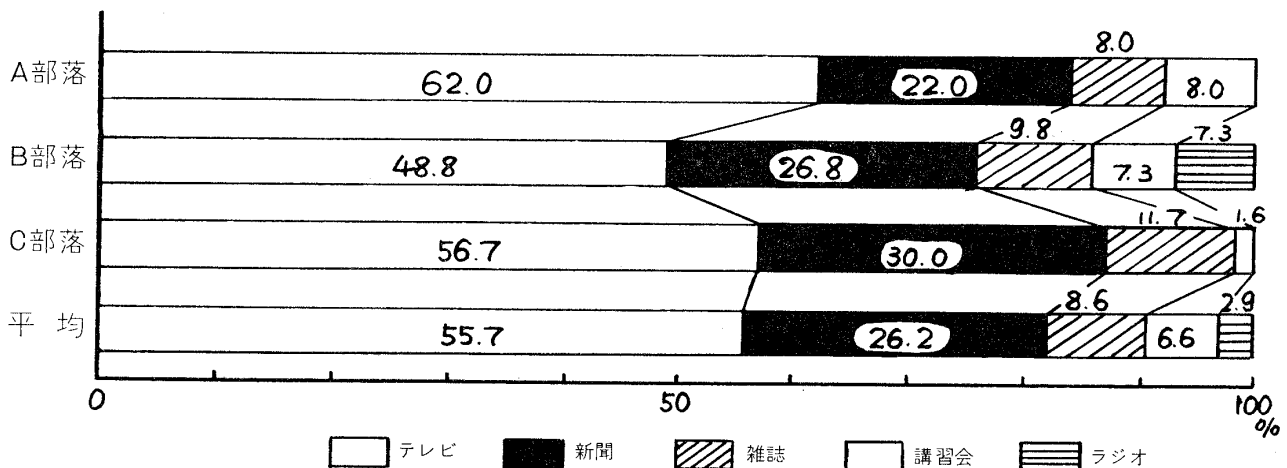
### I 衣生活に対する態度

山村である美杉村において、家庭の管理者である主婦が衣生活を如何に管理、運営しているかを次の点について概括的に調査し、検討を試みた。

- ◎衣生活に関する知識の吸収方法について
- ◎衣類の購入動機及び家計の記帳について
- ◎衣類の購入について

#### 1 衣生活に関する知識の吸収方法について

忙しい毎日を送っている農家の主婦が衣生活に関する知識をいかなる方法によって得ているかをテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、講習会、サークル活動の6項目について調査した。その結果は第1図に示す通りである。テレビと解答した者は全体の55.7%をしめ、次いで新聞、雑誌



第1図 衣生活に関する新しい知識の取得方法

の順となっている。現代の生活でテレビの果たす役割がいかに大きいかをここにみる事ができる。テレビ、新聞、雑誌等のマスメディアが山村の生活に深く浸透しているのに比して、講習会、サークル活動などは少く、婦人会、公民館の主催する集りも、勉強をするというより娯楽的な場として利用されることの方が多いようである。

家庭で購読している新聞、雑誌について調査した内訳を第1表に示した。新聞を購入していない家庭が調査者の約20%もあり、テレビの普及率が100%以上（第1報参照）ある現実からみると、忙しい農家の生活では活字による新聞、雑誌からではなく、自然に目から入ってくるテレビによって種々の知識を得ていることになる。購入している新聞の種類は中日新聞、伊勢新聞の地方紙が多く占めている。雑誌は調査者の38.7%の家庭にしか購入されておらず、残りの61.3%の家庭では雑誌を購読していない。先に述べたようにテレビに対する依存度が高いだけに新聞、雑誌を読む割合が少なくなってきているともいえるが、物を読み、理解し、見識を広めていくといういわゆる“考える主婦”としての生活態度が少ない。雑誌の種類としては家の

第1表 家庭で購入している新聞、雑誌の内訳

新聞	項目	読んでいる						読んでいない	
	新聞名	朝日新聞	毎日新聞	産経新聞	中日新聞	伊勢新聞	その他		計
	部落名								
	A 部落	3.0%	23.5%	0%	32.4%	26.5%	5.9%	91.4%	8.6%
	B 部落	21.7	4.3	13.0	4.3	21.7	0	65.0	35.0
	C 部落	2.8	2.8	11.1	27.8	30.6	5.6	80.7	19.3
	平均	7.5	10.8	7.5	23.7	26.9	4.3	80.6	19.4
雑誌	項目	読んでいる					読んでいない		
	雑誌名	家の光	暮らしの手帖	婦人生活	主婦の友	その他		計	
	部落名								
	A 部落	20.6%	5.9%	0%	0%	5.9%	32.4%	67.6%	
	B 部落	34.8	0	8.7	4.3	4.3	52.1	47.9	
	C 部落	13.9	0	11.1	5.6	5.6	36.2	63.8	
	平均	21.5	2.2	6.4	3.2	5.4	38.7	61.3	

(注) 雑誌の内訳は主婦が購読しているものである。

光（農家向雑誌）と婦人雑誌が多く、農家と非農家とでは購入雑誌の種類が異っている。農家の多いA、B部落では家の光が圧倒的に多く、非農家の多いC部落では一般婦人雑誌が多くなっている。

## 2. 衣類の購入動機及び家計の記帳について

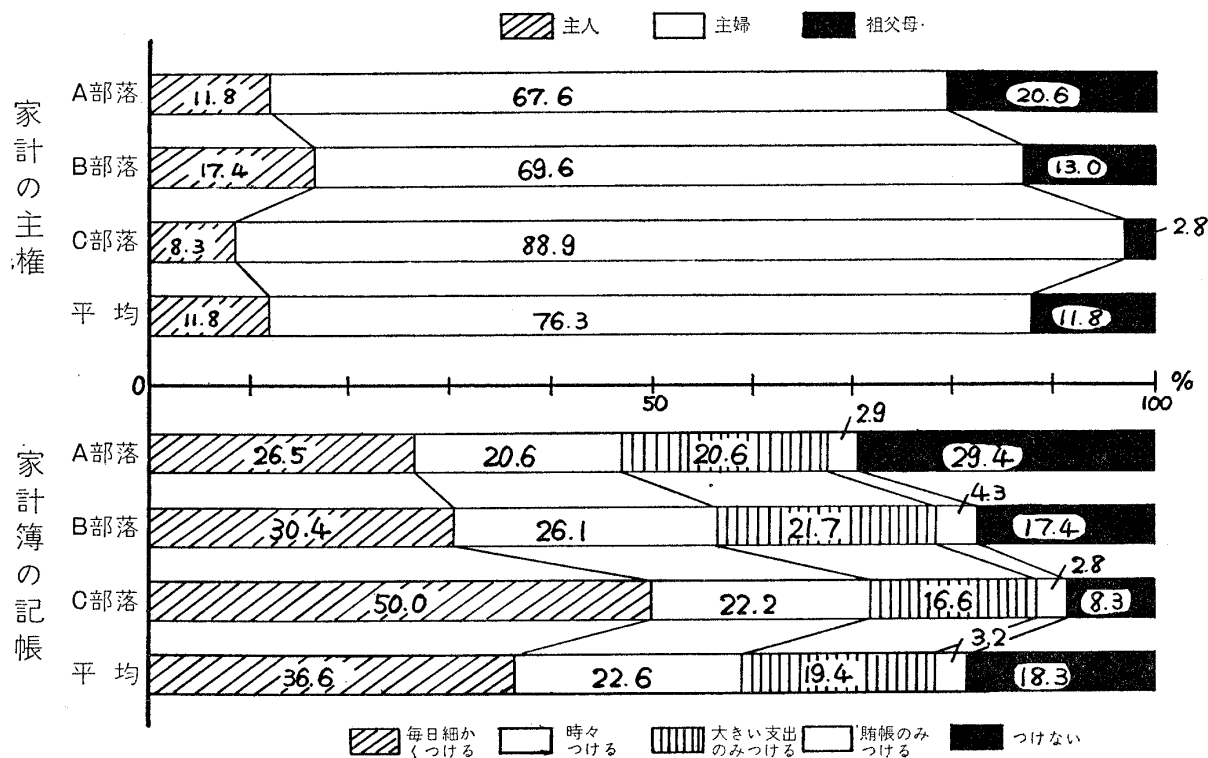
第2表 衣類の購入動機

項目	(イ) 必要にせまられて購入する	(ロ) 計画的に購入する	(ハ) 思いつきで購入する	(ニ) 暮と中元に購入する
部落名				
A 部落	68.4%	13.2%	13.2%	5.2%
B 部落	69.2	22.2	3.8	3.8
C 部落	66.7	23.7	4.8	4.8
平均	67.9	19.8	7.5	4.8

衣類を購入する動機について第2表に示す4つの項目に分けて調査した。その結果67.9%の家庭では「必要にせまられて購入する」場合が多く、「計画的に購入する」と答えた家庭は19.8%である。従来農家では暮と中元に購入する家庭が多いと聞いていたが、それは僅かに4.8%と少くなっている。部落別にみると非農家の多いC部落に「計画的に購入する」と答えた家庭が多く、次いでB部落である。C部落においては現金収入が定期的に入るサラリーマンが多いために、月々計画的に家計をきりもりしやすいことに一因していると思われる。

さらに家計の主権及び家計簿の記帳がどの程度なされ、計画ある予算生活が送られているか

否かを調べてみた。第2図は家計の主権者及び家計簿の記帳程度について調査した結果である。76.3%の家庭では家計の主権は主婦にあり、主人に主権のある家庭は11.8%、祖父母にあ



第2図 家計の主権及び家計簿の記帳について

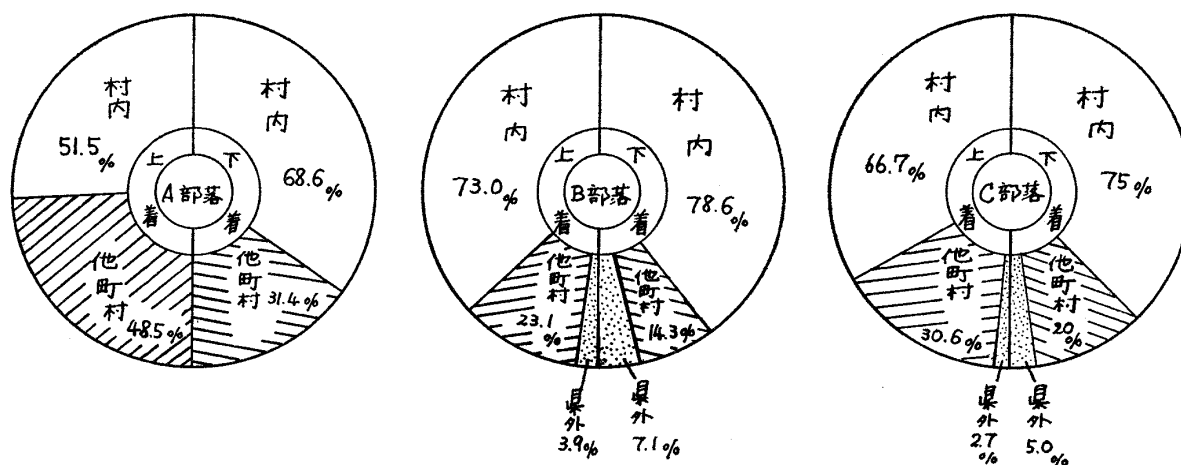
る家庭は同じく11.8%である。このように80%に近い家庭で家計の主権が主婦にあることは、この調査の対象となった主婦の年齢が比較的若いことからみて（Ⅲ、結婚の費用調査の項参照）、民主的な考え方が家庭内に根をおろし、農村における主婦の座が向上してきている現れと云えよう。

主婦が家計簿をどの程度記帳しているかを第2図により検討すると、「毎日記帳する」と答えた家庭は37%であった。ちなみに1960年11月に東京都民生局が出した婦人関係資料第5号「都民婦人の意識と実態—消費生活及び家事技術に関する調査」<sup>2)</sup>によると、家計簿を記帳している主婦は51.7%で、48%が記帳していないという結果である。美杉村をそれと比較するとその記帳程度は東京都の場合より低い。しかし非農家の多いC部落では50%が記帳しているという東京都の場合に近い数字を示している。これは先にも述べたように現金収入が定期的に入るために計画的な家計のやりくりがしやすいためと考えられる。美杉村全体をみると、毎日記帳している家庭36.6%、なんらかの形で記帳している家庭45%を合わせると約80%の家庭が記帳していることになり、従来の農家の経済生活よりも一段と計画的に運営され、進歩してきていることが分かる。しかし衣類の購入動機の調査ではまだ必要にせまられて購入する家庭が多いことからみても、家計簿の記帳も支出の面に限られ、あらかじめ予算を立ててその予算の範囲内で支出するという家計の運営にまで至っていないと云える。

## 3 衣類の購入について

第3表 衣類の購入者

購入者 部落名	主人	主婦	祖父母	子供
A 部落	2.7%	80.6%	11.1%	5.6%
B 部落	4.4	82.6	13.0	0
C 部落	0	91.9	0	8.1
平均	2.1	85.4	7.3	5.2



第3図 衣類の購入先

第3表及び第3図は衣類の購入者及び購入先について調査した結果である。衣類の購入には主として主婦が当たっている。購入先は下着類、上着類に分けてみると、いずれも村内で購入する家庭が多く、他町村、県外は少い。しかし上着類はデザイン、色彩、素材など新しいセンスのものを購入したいだけに、他町村で購入する家庭が下着よりも多くなっている。また部落の地理的条件もあり、A部落のように他町村へ便利な部落では他町村での購入が目立っている。

被服を購入する場合には、被服の着用目的に合うよう選択することは必要なことである。それには消費者の経済的な条件や心理的条件もあるが、生産者の健全な発達を促すためにも賢明な選択能力を消費者各人が身につけることは大切なことである。被服を

選択する場合の条件は種々あるが、その一部をあげ調査した結果を第4表に示した。この表は調査者が選択した項目の最も多いものを10として示したものである。下着と上着とでは調査項目が異なるので比較すること

第4表 衣類の購入条件

(1) 下着

項目 部落名	洗たくし やすい	値 段	伸縮性	保温性	デザイン
A 部落	10	9.8	6.0	5.7	2.4
B 部落	10	8.6	7.3	2.7	2.3
C 部落	10	7.1	9.2	3.3	4.3
平均	10	7.5	6.5	3.5	1.4

はできないが、上着ではデザイン、色彩よりも値段が優先している。これは上着類は比較的高価になるために、決められた予算の範囲内で購入しなければならないからと思われる。部落別にみるとC部落が他の2部落と傾向を異にし、上着の購入に当ってもデザイン、色彩が値段より優先している。これは第1報にも報告されているように、部落全体が非農家が多く、文化程度が高いことによるものであろうか。

(ロ) 上着

部落名 \ 項目	値段	デザイン	色形	ゆったりしている	手ざわり
A部落	10	10	6.6	8.2	2.7
B部落	10	8.2	8.9	8.9	2.2
C部落	10	11.1	10.8	8.8	2.1
平均	10	10	8.6	8.4	1.3

※下着では洗たくしやすい、上着では値段を10とした場合の値である。

## II 主婦の職業及び家事労働について

技術革新と生産の合理化は耐久消費財の普及をはじめ消費生活の内容を高めた。その消費生活の向上は特に急激に農村の都市化として現われてきた。しかし時には外観的なものに走ったり、または本来の機能以外に装飾的に耐久財の需要が高まっている点もみのがせない。美杉村の基礎調査においては耐久消費財の普及率は都市化の現象を呈していた(第1報参照)。それらの消費財がいかに活用され、それによって主婦の家事労働はどんな結果をもたらしたか、更に主婦が如何に余暇を利用しているかについて調査し、検討を試みた。

調査内容は衣生活に関する洗たく、アイロンかけ、裁縫をはじめ、主婦として重要な育児、食事の仕度、睡眠時間、更に農村特有の農作業及び家内職について調査した。

### 1 主婦の生活時間及び家事労働

家事労働のうち衣生活に関係ある洗たく、アイロンかけ、裁縫について使用時間、実施時刻及び回数について調査した。(第5表参照)

使用時間については洗たく、裁縫共に30分～1時間が多く、アイロンかけでは10分～30分が多い。時刻別にみると洗たくは朝行う主婦が一番多く、アイロンかけと裁縫は夜が多くなっている。生産労働と家事労働の二重の負担を背負っている農家の主婦にとっては農作業にたづさわる前後に家事労働に従事しなければならないのは当然のことと云えよう。

回数別にみると洗たくでは毎日行う家庭が大部分で特にC部落に多い。アイロンかけでは毎日行う家庭は全体に少なく、「めったにかけない」と答えた主婦が43.6%と調査者の半数を示した。部落別にみるとA、B部落では「めったにかけない」と答えた主婦が63.6%と多くを占め、C部落では「月4回」と答えた主婦が55.6%と多かった。農村では多忙でアイロンをかける暇もなかなかないと考えられるが、日常は作業着で過ごすことが多いためにアイロンかけをあまり必要としないことや、化学繊維の普及によってその利用が高まり、洗たく後のアイロンかけが少なくなっているためであろう。裁縫ではアイロンかけ同様「めったにしない」と答えた

第5表 主婦の家事労働の内訳

項目		所要時間					時刻				回数				
洗たく	分類	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上	その他	朝	昼	夜	その他(決つて)	毎日	その他			
	部落名														
	A部落	75.4%	7.8%	2.6%	—	14.2%	86.4%	—%	10.4%	3.2%	84.2%	15.8%			
	B部落	61.0	30.5	4.4	—	4.5	82.0	4.6	10.7	2.7	90.0	10.0			
	C部落	58.4	33.4	2.8	—	5.4	61.2	—	13.9	24.9	91.7	8.3			
	平均	64.6	23.9	3.3	—	7.9	76.5	2.8	15.3	5.4	88.6	11.4			
アイロンかけ	分類	10分～30分	30分～1時間	1～1.5時間	1.5～2時間	その他	朝	昼	夜	その他(決つて)	毎日	月4回	月3回	その他(めつたにかけない)	
	部落名														
	A部落	39.0%	10.4%	—%	—%	50.6%	7.8%	7.8%	23.4%	39.0%	7.8%	5.2%	23.4%	63.6%	
	B部落	64.5	8.6	—	—	26.9	—	8.6	47.3	44.1	21.6	8.6	21.6	48.2	
	C部落	69.0	16.7	2.8	2.8	8.7	8.9	11.1	33.4	46.6	16.6	55.6	8.9	18.9	
	平均	57.5	11.9	0.9	0.9	28.7	5.6	9.2	34.7	50.5	15.3	23.1	18.0	43.6	
裁縫	分類	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上	その他	朝	昼	夜	その他(決つて)	毎日	月4回	月3回	その他(めつたにかけない)	
	部落名														
	A部落	54.6%	20.2%	—%	5.2%	20.0%	2.6%	23.4%	33.8%	40.2%	10.4%	15.6%	20.8%	53.2%	
	B部落	43.5	21.6	8.6	—	26.3	26.1	21.6	43.5	8.8	—	30.5	26.1	43.4	
	C部落	63.9	2.8	11.1	2.8	19.4	2.8	36.2	64.5	—	13.9	36.2	11.1	38.8	
	平均	54.0	14.9	6.6	2.7	21.9	10.5	27.1	47.3	47.3	8.1	27.4	19.3	45.2	
食事(三回合計)	分類	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	その他									
	部落名														
	A部落	7.8%	39.0%	23.4%	10.4%	19.4%									
	B部落	21.6	39.2	30.5	—	8.7									
	C部落	13.5	52.8	25.0	2.8	5.9									
	平均	14.3	43.7	26.3	4.4	11.3									

主婦が多く、特にA部落が目立った。この部落には専業農家が多く、しかも家内職にたづさわっている主婦が多いので、アイロンかけ及び裁縫の少いのは当然であろう。回数と時間数からみて作業の内容は日常着の製作と補綴くらいと考えられる。

育児の担当は殆んど主婦である。家庭によっては祖母が主として当たっているところもあり、全体の10%を占めている。

食事の仕度には3回合計で2時間以内が最も多い。睡眠時間は平均7時間とられている。しかし農家は季節によって生活時間が変わり、特に農繁期には食事の仕度、睡眠時間共に短縮され

ているようである。睡眠時間を全国平均<sup>3)</sup>と比較してみると40分も少くなっている。

以上主婦の生活時間及び家事労働について検討してきたが、全体にみて家事労働に費やす時間は少く、主婦に望ましい生活時間構造とされている8時間の睡眠、8時間の家事作業、8時間の自由時間は生産労働にたづさわる美杉村の主婦には該当しないと云える。

## 2. 主婦の作業内容について

農家の主婦にとって最も多くの時間とエネルギーを消費する作業内容について調査してみた(第7表参照)。

田畑、山林の作業に従事する主婦は調査者のうちA部落では97.1%、B部落95.7%、C部落では66.7%を占めている。しかもその中で主人が農業以外の職業を持っているために主となって農作業に従事している主婦はA部落で約40% B部落約30%、C部落60%となっている(第1

報参照<sup>1)</sup>)。また農、林業以外に家内職に当たっている主婦はA部落100%、B部落74%、C部落で42%もある(第1報参照<sup>1)</sup>)。この数字から田畑はもちろんのこと、家内職をかかえ、しかもその上に家事作業をしなければならない農家の主婦の厳しさをみることが出来る。農作業に追われるために、農家の主婦にとって負担になってくる家事労働はできるだけ合理化される必要

第7表 主婦の作業内容

部落名	調査人員	職業従事者	作 業 内 容					
			田 畑	草 取 り	コンニャク	下 刈	養 蚕	そ の 他
A 部 落	34	33(97.1%)	26(78.8%)	1(3.0%)	3(9.0%)	2(6.2%)	1(3.0%)	1(3.0%)
B 部 落	23	22(95.7%)	14(63.6)	2(9.1)	1(4.5)	4(18.3)	1(4.5%)	
C 部 落	36	24(66.7%)	19(79.2)	9(37.5)				

がここに出てくるわけである。それにはひとつに家族の協力を得ること、今ひとつは現実にある耐久消費財を十分活用することにより、主婦の作業時間及びエネルギー消費を少くし、余暇の時間を殖やすことが考えられなければならない。

## 3 主婦の余暇の利用及び外出について

生産労働と家事労働に追われる農家の主婦は余暇を如何に過ごしているだろうか。余暇利用の内容をみると(第8表参照)、テレビが82.3%と最も多くなっている。疲れた体をテレビを

第6表 昭和40年国民生活時間(平日)  
(NHK文化研究所調査)

成 人 女 子 (昭和40年)	
1. 睡 眠	7時40分
2. 食事・身のまわり	2. 00
3. 勞 働	4. 50
4. 交 際	. 40
5. 休 養	1. 00
6. 趣 味	. 20
7. テ レ ビ	3. 20
8. ラ ジ オ	. 30
9. 新聞・雑誌	. 20
10. 家 事	5. 20
11. 1 + 2 + 3 + 10	19. 40

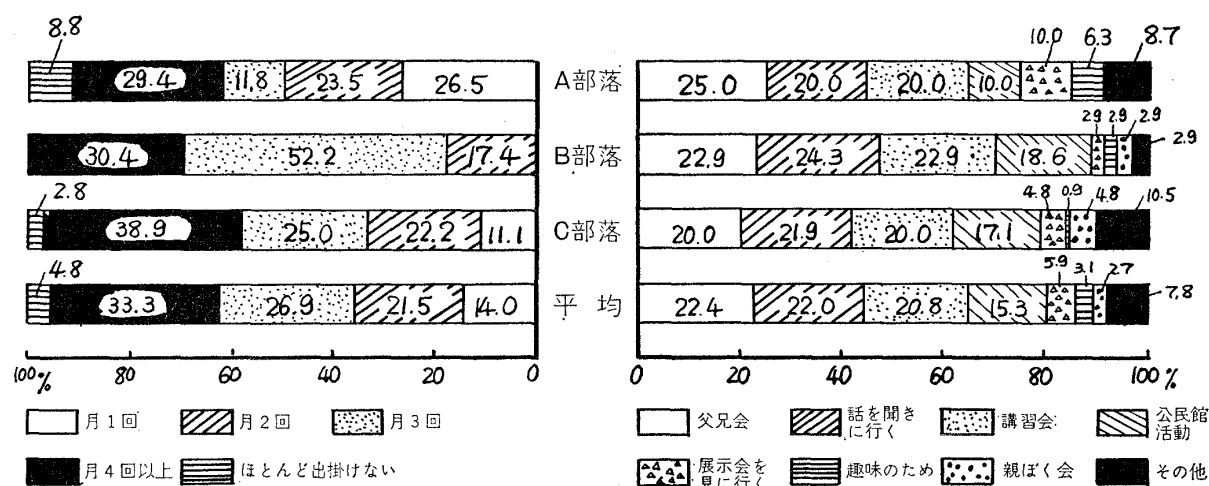
(国民生活白書1966年)



第8表 主婦の余暇の内容

項目	読 書	ラ ジ オ	テ レ ビ	編 物	その他
A 部 落	15.6%	—%	78.9%	7.8%	7.8%
B 部 落	39.2	4.4	87.0	—	8.7
C 部 落	25.5	2.8	81.0	11.1	13.9
平 均	26.8	2.4	82.3	6.3	10.1

みながら休め、明日への労働力を生産するのであろう。先の衣生活の態度の項でも述べたように、テレビが如何に深く農家の生活のよりどころになっているかをここにもみることができよう。



第4図 主婦の1カ月の外出回数及びその内容

外出については回数からみると月2回が33.3%と一番多い。部落別にみるとB部落が比較的多く、特に月3回も外出している主婦が52.2%と目立っている。外出の内容は第4図に示す通り3部落共通して多いものは学校の父兄会とお話を聞きに行くことである。山村では学校へ出掛けていって、子供の成長ぶりを学校という社会の中でみる喜びがあること、また教育に対する熱心さの現われとも云えよう。お話を聞きに行く、講習会、公民館活動のための外出が多いのは、都会ではあまりみられない山村らしい外出内容である。労働にあけくれる山村においては緊張をほぐすためには、外出はレジャー活動の一つとみてよいであろう。

### Ⅲ 結婚の費用調査

一般に農村においては日常生活を簡素にして、結婚式、葬儀等に多額の費用をかけているようである。美杉村における生活基礎調査(第1報参照)<sup>1)</sup>の耐久消費財は非常に高率であることからみて、都市化の進展している生活内容であるとも考えられる。そこで農山村における結婚の実態調査を行い、検討を試みた。

調査対象の主婦93名中、結婚当時者並びにその関係者は45名(45%)であった。A部落9名

B部落17名、C部落19名である。

### 1 結婚年度

今回の調査では30～41年における結婚人口を調査したが、39年～41年の3カ年に結婚した者の約70%を占めており、最近の結婚者が多く、調査者の年齢は全体に若い。

(注) 結婚年度は昭和30年～41年の11ケ年であるので物価の変動があったと考えられるが、39年～41年の3ケ年間に約70%を占めているので数字はそのまま使用した。

### 2 式場について

結婚式場は自宅で挙行した率が高く、A部落100%、B部落77% C部落74%となっている。

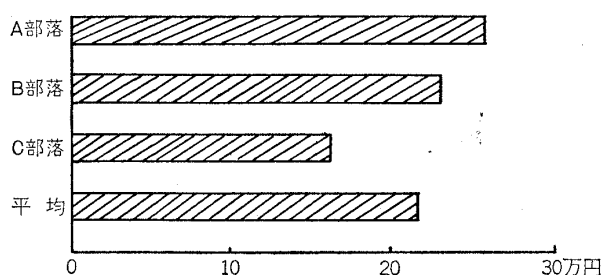
第9表 結婚式場・披露宴会場調査

項目		部落名			計
		A 部落	B 部落	C 部落	
結婚式場	村 内	9件 (100.0%)	13件 (76.5%)	14件 (73.7%)	36件 (80.0%)
	他 町 村		1 ( 5.9 )	3 (15.7 )	4 ( 8.9 )
	県 外		3 (17.6 )	2 (10.6 )	5 (11.1 )
	計	9 (100.0 )	17 (100.0 )	19 (100.0 )	45 (100.0 )
披露宴会場	家 庭	9 (100.0 )	14 (82.4 )	9 (47.4 )	32 (71.1 )
	神 社		2 (11.7 )	7 (36.8 )	9 (20.0 )
	会館・ホテル		1 ( 5.9 )	1 ( 5.3 )	2 ( 4.4 )
	そ の 他			2 (10.5 )	2 ( 4.4 )
	計	9 (100.0 )	17 (100.0 )	19 (100.0 )	45 (100.0 )

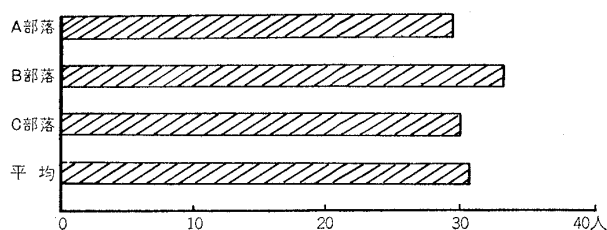
これは自宅座敷を式場とする山村特有の風習からきたもので、専業農家の多いA部落において100%を示したのは当然であろう。披露の場所も71.2%と自宅が多い。しかし神社、ホテル、会館等で行った家庭もあり、その割合はA部落では皆無であるが、B部落17.7%、C部落52.6%となっている。C部落が他の2部落に比してホテル、会館等を利用して<sup>1)</sup>いる率が高いことは、非農家が多く、しかもサラリーマンの家庭が多い(第1報参照)ことから、生活が合理化されているのではないかと考えられる。また耐久消費財も他の2部落に比して高率を示し、都市化の傾向が進んでいることも関連していると考えられる。

### 3 披露宴の費用及び招待人数

披露宴に要した費用は3部落合わせて10万円以内55.6%と全体の2分の1以上を占め、10万円～30万円以内は35.5%、50万円以上は8.9%となっている。更にこの内訳をみると10万円以内はA部落で22.2%、B部落47%、C部落79%。10万円～30万円ではA部落77.8%、B部落41%、C部落10%。50万円以上はB部落、C部落共に11～12%であった。一軒当りの披露宴の費用は第5図に示す通りである。



第5図 結婚披露宴の費用（1軒当り）



第6図 結婚披露宴の招待数（1軒当り人数）

招待人数については20名～30名が1番多く64.4%、30名～50名20%、50名～70名及び70名以上は4.4%である。10名～20名は6.8%と少い。部落別に1軒当りの招待人数を平均してみるとA部落29名、B部落33名、C部落30名であまり差はみられない。

耐久消費財に高率を示すC部落において披露宴の費用が一番少くなっているのは、日常生活を豊かにし、冠婚葬祭に冗費を少くしていることによるものであろう。

#### 4 結婚衣裳

第10表 結婚衣裳の費用

部落名 金額	A 部落	B 部落	C 部落	計
2万円以下	1名 (11.2%)	8名〔1〕 (47.0%)	6名 (31.6%)	15名〔1〕 (33.3%)
2万円～3万円	2〔1〕 (22.2 )	3〔1〕 (17.7 )	6 (31.6 )	11〔2〕 (24.4 )
3万円～5万円	2 (22.2 )	1 (5.9 )	4 (21.0 )	7 (15.6 )
5万円～10万円	4 (44.4 )	3 (17.6 )		7 (15.6 )
10万円～20万円			2〔1〕 (10.5 )	2〔1〕 (4.4 )
20万円以上		2 (11.9 )	1〔1〕 (5.3 )	3〔1〕 (6.7 )
計	9 (100.0 )	17 (100.0 )	19 (100.0 )	45〔5〕 (100.0 )

〔 〕内は自家製作した者である。

結婚式服として自費製作をした人は5名あり、調査該当者の11%を占めている。その中で目立つのはC部落に20万円程度の費用をかけた者が2名あることである。他は3万円以下（A部落1名、B部落2名）である。借衣裳が全体の約90%を占め、都会同様に借衣裳ですます傾向が強いようである。費用は3万円以下が58%と多く、次いで5万円～10万円の30%、20万円以上は11%と少い。

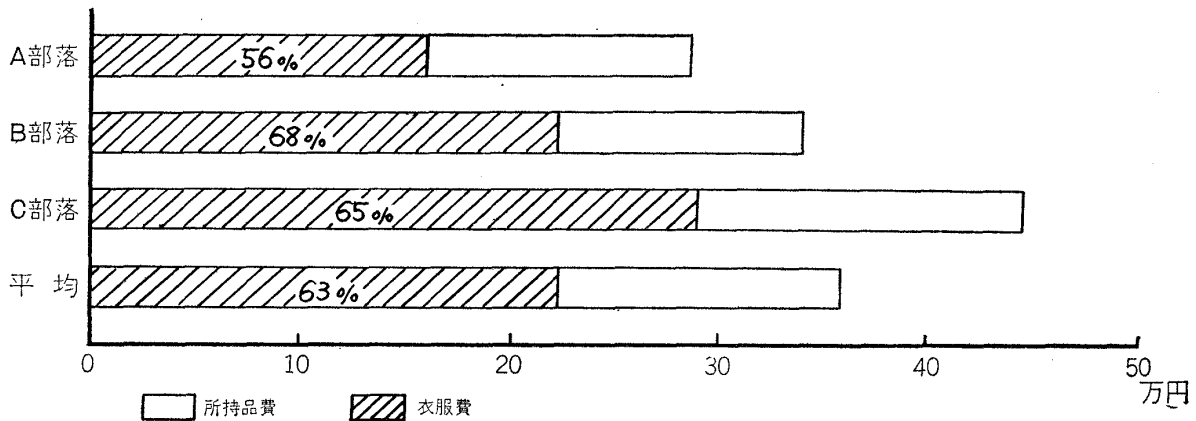
#### 5 結婚所持品金額

結婚所持品については、現在都市においては住宅事情もあって次第に縮小されていく傾向にあるが、美杉村の場合はどうであろうか。費用の面から調査してみた。第11表に示すように20万円以下38%、30万円～50万円24.4%、70万円～90万円11%、100万円以上は僅かに2.2%である。先の披露宴の費用、結婚衣裳費についてはC部落が低い割合を示していたが、所持品金額

第11表 結婚所持品の金額（道具・衣類等を含む）

金額	A 部落	B 部落	C 部落	計
15万円以内	2名 (22.2%)	3名 (17.6%)	2名 (10.5%)	7名 (15.6%)
15万円～20万円	3 (33.4)	5 (29.2)	2 (10.5)	10 (22.0)
20万円～30万円	2 (22.2)	4 (23.5)	5 (26.4)	11 (24.4)
30万円～50万円	2 (22.2)	2 (11.9)	7 (36.8)	11 (24.4)
50万円～70万円		2 (11.9)		2 (4.4)
70万円～90万円		1 (5.9)	2 (10.5)	3 (6.7)
90万円～100万円			1 (5.3)	1 (2.2)
100万円以上	9 (100.0)	17 (100.0)	19 (100.0)	45 (100.0)

では大きい数字を示している。これは結婚式当日に多くの費用をかけて盛大にするよりも、これからの新生活に多くの費用を投ずる方が意義があると考えているのであろう。



第7図 結婚所持品費（道具、衣類等1人当り金額及び衣服費の割合）

更に所持品金額中所持被服費の割合を調べてみると第7図に示すようにA部落では56%、B部落68%、C部落65%とかなり高い率を示している。3部落を平均すると所持被服費の割合は63%となり、従来嫁入りにはタンス、長持ちを一杯にしてゆく風習がまだここにも残っているといえよう。

## 総 括

### I 衣生活に対する態度

- 1 衣生活に関する新しい知識はテレビの普及と相まってテレビから得ている主婦が多い。忙しい農家の生活ではなかなか困難なことではあるが、物を読むことによって知識の糧としていこうとする主婦の生活態度は少ない。
- 2 家計簿の記帳については37%の家庭が毎日記帳しているという結果を得た。また非農家

の多いC部落では50%という高率を示した。衣類の購入については67.9%の家庭が必要にせまられて購入している。この点からみて予算を立て、年間の被服計画に従って経済生活を営むところまでは至っていないようである。

3 衣類の購入には主婦が当り、購入先は大部分村内である。

## II 主婦の職業及び家事労働について

1 主婦の生活時間及び家事労働全体を通していえることは、労働にたづさわる時間が多すぎて生活にゆとりがなく、睡眠、休息をはじめ日常の食事、整容をも短時間ですませ、生活が単調になっているようである。

2 家事労働を軽減するためにも活用されなければならない耐久消費財も、洗たく機は洗たくの回数及び時間からみてかなり使用されていると考えられるが、アイロンかけ、裁縫の回数及び時間数からみてミシン、アイロンの使用は少いと考えられる。

3 精神面、肉体面の緊張をほぐすレジャーも少く、多少外出があるのみである。ただテレビ、ラジオが普及し、活用率が高いことがせめてものなぐさめになっていると思われる。

## III 結婚について

1 美杉村では結婚披露にかなりの費用が使用されており、結婚の簡素化はまだまだの感が強い。生活合理化のためには公民館を役立て利用するようにすべきであろう。

2 結婚所持金額のうち被服費の占める割合は高い。旧習の虚飾的な感情からぬけて、現在の進歩と変化の激しい生活の上にもう一度考慮すべきであろう。

最後に本調査に対しご便宜とご協力をいただいた美杉村村長、同教育長、各部落公民館長、美杉村婦人会長並びに会員各位、下の川、太郎生、伊勢地の各中学校長並びに職員の皆様に厚く感謝の意を表す。

なお本調査にあたりご指導いただいた本学戸野村教授及び田中徹教授、ご示唆をいただいた本学池田教授、またご助言いただいた東海農政局の下村、久木山農林技官、本学長谷川知一教授、精園英一、村尾講師に深謝するとともに、調査に協力を得た本学家政科学生に感謝する。

## 参 考 文 献

- 1) 東海学園学術調査団 東海学園女子短期大学紀要第4号(1967)
- 2) 生活科学調査会編 主婦とは何か一家事労働と婦人の意識(1965)
- 3) 経済企画庁 国民生活白書(1966)
- 4) 美杉村要覧(1966)
- 5) 飯塚重威、稲葉ナミ、山本キク共著 家庭経営(家政教育社)
- 6) 東海学園学術調査団 東海学園女子短期大学紀要第2号(1966)